

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症や高齢になっても、住み慣れた場所で最期まで、安心安全に生活することができることを目標に、職員はそれらを共有し、日々のケアをご利用者に提供している。	「地域の方の安心、安全な生活支援…」という理念を踏まえ、職員会議の席上それに沿った取り組みを項目毎に取り上げ研修を行い、認知症ケアの向上に繋げている。また、訪問看護師が講師となり看取り研修を行いホームの理念にある「その場で最後まで生活出来るケア」の実践に繋げている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状では新型コロナウイルスの感染状況により、地域とのつながりを持つ事が難しくなっているが、防災訓練などに地域の方に参加してもらうようにしたり、近所の商店へ行ったりしながら、関係が途切れない様になっている。また、同一敷地内に他施設があり、そちらの職員とも馴染みの関係が築けるよう事業計画にしている。	新築移転して間もない状況であるが自治会に加入し自治会費を納め回覧板も回して頂いている。新型コロナ禍が続く地域行事も中止の状況が続く新たな繋がりを持つことが難しくなっているが、地域の方が近くの公園の草取り等の整備に見えた時には交流をしている。また、近くに法人内のデイサービスや別法人の障がい者施設もあることから職員間の交流を深めている。そのような中、大学生の職場体験の来訪があり、傾聴中心に利用者で交流している。現在、ボランティアの来訪も自粛中であるが収束後の活動に向け連絡を取り合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や小中学校を対象にした、認知症サポーター養成講座において、認知症への対応の仕方や理解などを寸劇にして取り入れ、職員はその寸劇などに参加している。また、地域に向けて認知症行方不明者捜索訓練を実施し、職員が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を参考に、サービスに生かしている。会議が、書面開催になっていることが多く、なかなか意見が得られない現状がある。	新型コロナ禍が長引き書面での開催となっている。利用状況や事業計画、グループホーム移転後の状況等を書面にし、家族代表、区長、民生委員、依田窪南部消防所長、町民福祉課に届け、ご意見を頂きサービスの向上に繋げている。対面での開催が難しい状況下、書面と合わせアンケート用紙を同封し、ご意見を頂くようにしたいという意向がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの移転に伴い、たくさんの情報交換ができた。また、移転後のグループホームについても様子を見に来てもらったりしてご利用者の安全につながるよう協力関係を築いていきたい。市町村が取り組む事業などにも参加するようにし、何かあればその都度相談できるようにしている。	随時、町民福祉課と連携を図り「認知症に特化した町づくり」について話し合っている。また、認知症養成講座や役場のホールで行う「認知症あったカフェ」の開催に協力している。更に、認知症行方不明者の捜索訓練にも職員が参加している。長和町役場主催の地域包括ケア会議にも出席し、他事業者とも意見交換を行い運営の参考にしている。介護認定更新調査は家族に連絡の上調査員が来訪し職員が対応して行っている。	

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を毎月おこなって、研修も実施している。「身体拘束を行わないケア」ではなく、ご利用者にとって、どのようなケアをすることが最善であるかを中心にサービスが提供できるようにしている。	月1回開くリスクマネジメント委員会で身体拘束に対する意識を高め利用者にとって何が最適かを考え「グレーゾーン」をなくす支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されているが出入りはセンサー音で知らせようになっている。帰宅願望の強い利用者が数名いるが、どうして帰りたいのかを考え、個々に話を聞き、散歩やドライブ等も行い対応している。また、転倒危惧のある方が半数弱おり家族と相談の上人感センサーを使用している。合わせてホーム内の目の届きにくい場所に安全確保のための人感センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、研修ができるようにしている。また、法人内や外部研修などにも参加できるようにして職員意識を高め、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、経営会議での管理者勉強会に参加している。またそれらが必要な際には、活用できるよう関係者と日々の信頼関係が築けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話しやすい環境や雰囲気づくりを心掛けている。また、その場ではわからなかったこともあると思うので、その後のフォローなどでもできるように、こちらから声をかけたりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時には、職員から積極的に様子を伝えたり、声をかけるようにしている。また、ご利用者においては、日々の言葉を聞きながらサービスに反映できるようにしている。運営推進会議にご家族も参加してもらっている。	新型コロナ禍が続く中、家族の面会は感染状況を見て中庭と新設されたテラスを利用して大きな窓の所で窓越し面会を基本として行っている。2週間に1回～月1回のペースで面会に見えらるる家族が多く、誕生日や敬老の日にはプレゼントを届ける家族が多くいるという。また、ホームでの生活の様子は2ヶ月に1回発行されるお便り「なごみ新聞」で知らせ、日々の気づいた事柄については管理者がきめ細かく電話で伝えている。新型コロナの感染状況を見て以前のように年1回家族会を開くことを待望している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からのコミュニケーションに加え、半年に一度人事考課を実施し、そこでも職員の意見を取り入れるようにしている。今回はグループホームの移転に伴い、だいが職員の意見も取り入れることができた。	月1回月末の金曜日に全職員出席の下、職員会議を行っている。管理者よりの報告事項、カンファレンス、事故・ヒヤリハット報告、各種研修などを行い、意見交換では気軽に話の出る雰囲気作りに心掛けサービスの向上に繋げている。人事考課制度があり、半年に1回定められた項目毎に自己評価を行い、賞与時期に合わせて管理者による個人面談が行われ様々な意見交換の場としている。また、年1回職員対象のストレスチェックが行われメンタルケアにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不足があった中で、普段以上に職員の意見を取り入れてきた。また、その中でも、やりがいや目標をもって働くことができるように、人事考課以外でも話し合いの場を設けたりしてきた。今後も、職員意見をきちんと吸い上げて、代表者が反映できるようにしていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとり一人の力量にあった研修に参加できるよう促している。そのために勤務表なども反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染状況で、実際に会う機会は減ってしまったが、他法人とzoomをつかった研修などを取り入れ、意見交換などができるようにしている。参加人数に限りがあるので、多くの職員が参加できるようにしていきたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護計画書は、ご本人の意向に沿ったものを提供している。話しやすい環境づくりに配慮し、事前にご家族や関係者の方から情報を頂き、雑談なども交えながら、その中からも意見を拾うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の意向と同様に、ご家族の思いも大事にしてサービスを提供することができている。ご家族が大切にされているものを職員が共有できるようにしている。何かあればすぐに相談ができるような関係づくりをし、こちらからも声をかけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族のお話をゆっくりお伺いし、ひとつの提案だけでなく、他の選択肢も持てるような提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ゆっくり・いっしょ・わがまま」の介護方針を一人一人が理解し、ご本人の困りごとにも一緒に悩んで解決したり、職員の仕事を手伝ってもらったり、お互いに頼りながら生活をともにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや気持ちに配慮し、また同じ気持ちをもってサービスが提供出来たり、関りが持てたりするように意識している。そのために、ご家族とお話する機会を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会だけでなく、LINEのビデオ通話などもはじめたりして、行き来ができなくなったご家族とも連絡がとれるようにしたり、自宅の方面まで車で出かけたりにできるように支援している。 ご本人がわからなくても、ご家族に聞いたりしながら、馴染みの方や場所などのことが話題にできるようにしたりしている。	近くのゲートボール場に知り合いの方や町の高齢者住宅にお住いの馴染みの方が訪ねて来られ交流している。また、近くに犬を飼われている方がおり、近くの公園に散歩に出た時に笑顔で可愛がったりしている。合わせて近くにあるデイサービスでドッグセラピーを始めたので参加していきたい意向がある。好きな「おやつ」や使い慣れた「日用品」等、欲しい物については家族に連絡して届けていただいている。年末に向け今年も利用者一人ひとり毎に家族あてに年賀状を出す予定をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置に配慮したり、職員が間に入ったりしながら、お互いに共通な話題をみつけたり、関わったりできるようにしている。体が動かなくなってしまうご利用者さんに、他のご利用者の方が声をかけたり、手伝ったりして下さる姿も見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、お家に呼んでくださったり、グループホームを訪れたり声をかけてくださるご家族もある。ご利用者がお亡くなりになられた方には、そのことに寄り添ってご家族のケアも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からご本人の意向や希望が聞けるような会話をを行い、介護計画書や日々の生活に反映できるようにしている。お食事や日常の楽しみなどもすぐに取り入れられるように、職員で情報を共有したりしている。職員本意にならないケアを職員全員が意識することができるようにしている。	数名の利用者が意思表示が難しい状況で、家族より入居時に聞いた情報も参考に表情や行動より希望を受け止めるようにしている。1対1での関わりを大事にし居室に伺い、人間関係、家族のこと等、いい相談相手になれるように心掛けている。気づいた事柄については身体状況記録に纏めており、職員は出勤時に確認し意向に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、関係者、また以前利用されていた施設やサービス事業所などの情報も聞くことができるようにしている。また、それらの情報をアセスメントシートに反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員が情報を共有しながらその方にあった統一したケアができるようにしている。毎月の職員会議でカンファレンスを行っている。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人やご家族などに気持ちや意向などをお伺いしている。支援経過評価表などを用いて、再度ご本人やご家族とお話をし、その都度状況や体調に合ったサービスが提供できるようにしている。	職員は1～2名の利用者を担当し、居室管理、誕生日会の準備をおこなっている。また、担当職員は家族の意向を確認の上、支援計画の参考にするためアセスメントシートに纏め、モニタリングも行いカンファレンスに諮り、ケアマネージャーがプラン作成を行い家族に計画を伝えている。入居時は暫定で1ヶ月間のプランを作成し様子を見て、その後、具体的な支援計画を作成している。基本的には6ヶ月で見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時見直し、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のほかに、毎月ご利用者さんについてカンファレンスを設け、情報を共有しながら統一したサービスが提供できるようにしたり、ケアマネージャーのみでなく全員で考えて介護計画書に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状況やご家族の様子も都度伺いながら、柔軟に対応できるようにしている。職員ひとり一人がご家族との関係を築けるようにしているので、職員は皆で共有し解決したり、代替え案をもって対応ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外に出られたりするご利用者が少なかったり、なかなか外に出られなかったり、中に入れない状況ではあるが、移転後同じ敷地内にゲートボール場があり、お知り合いの方が通っている利用者がいる。そのようなところに参加してみたり、そのほかの地域資源を把握し、活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向に沿ってかかりつけ医にかかっている。適切な医療が受けられるよう、それらの医師と関係が築けるようにしている。	入居時に希望の医療機関について聞き、ホームとしての取り組みを説明している。現在、ホーム協力医の月1回の訪問診療対応の方が大半で、入居前からのかかりつけ医への受診対応の方が若干名おり家族がお連れしている。また、訪問看護ステーションの訪問看護師の来訪が月2回あり、利用者の健康管理に合わせ医師との連携が取られている。歯科については必要に応じ協力歯科の受診で対応している。薬の管理については最初に薬係の職員がチェックを行い、その後、遅番、夜勤職員がダブルチェックをし配薬時に三度目の確認を行うようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と訪問看護師が馴染みの関係になれるよう訪問看護の来所日を、月1→2にしてもらった。また、職員会議に参加してもらったり、合同研修をおこなったりしながら、ご利用者を知ってもらったり、相談しやすい関係作りを目指し、適切な医療に繋がるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行く頻度を適切に設け、必ずステーションに声をかけるようにしている。状況に変化があるようであれば、SWとすぐに連絡がとれるようにし、退院や今後の予定についてもすぐに相談ができるような関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向を伺うようにしているが、身体状況の変化に合わせて、話し合いの場を改めて設けている。ご家族、医師、訪問看護師、職員が参加できるように調整し、様々な方面から話ができるようにし、今後の支援についてお互いが理解・共有できるようにしている。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明し意向確認書にサインを頂いている。入浴や食事を摂ることが難しくなり終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合いの場を設け、家族の希望を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に1名の方の看取りを行い、居室内には好きな音楽を流し、新型コロナウイルス禍ではあったが家族にも感染対策を取った上で居室にて最後の時を過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。年1回実施される法人の看取り研修会には全職員が参加し心構えなどを学んでいる。また、看取り後は振り返りの機会を設け、経験を次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に普通救命講習の参加を義務づけている。また、緊急時の連絡先の確認等定期的に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの災害発生時のBCPをもとに職員研修を行っている。また防災訓練は年2回実施し、その際に他の災害についても話ができるようにしている。管理者が不在でも対応できるような体制作りが必要。	年2回災害想定時の避難誘導訓練を全利用者参加で行い、避難口より外へ移動しての訓練を行っている。合わせて防災会社の協力を得て消火器の使い方研修、防災機器の点検確認、通報訓練、スマートフォンのLINEの一斉配信の緊急連絡網確認訓練を行っている。備蓄は「レトルト食品」「水」などが3日分準備されているが、備蓄内容の充実に向けて検討をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを職員は十分に理解して声掛けを行っている。職員同士で不適切な声掛けがあれば、お互いに注意できるような関係性がある。	言葉遣いには特に気配りをし人生の先輩である利用者には尊敬の念を込め親しさの中にも丁寧な言葉を遣うようにしている。また、利用者の前では他の利用者の話はしないよう徹底している。呼び掛けは入居時に希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。居室のドアはプライバシーに配慮し閉めるよう徹底し、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを行うようにしている。年数回プライバシーに配慮した研修会を行い意識を高め支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、ご本人の希望を伺ったり選択肢が持てるような声掛けをしている。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴のたびに声をかけ、ご本人の了承を得たり、お返事によっては時間を変えたりしながら、ご本人のペースに合わせた支援を心がけている。また離床したりする時間も同じでなく、ご本人が決められるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類選びなど、ご本人に聞きながらおこなっている。ご自分で選ぶことができない方には、以前のお写真やお話をご家族から伺ったりしているので、それに近い形で支援できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを聞いたり、リクエストメニューなどを提供している。行事食の際には、一緒に作ってもらったりしている。普段からできる方には、調理をおこなってもらったりキッチンに立ったりしてもらっている。刻み食やペーストの方にも、食事前に声をかけてメニューを説明したり、彩りなども工夫している。	自立の方が三分の二で、一部介助の方と全介助の方が若干名ずつという状況で、食形態はキザミ、一口大の方が数名いる。献立は利用者の希望も加味しながら朝食と夕食は職員が冷蔵庫の中の食材を用い調理している。昼食は季節感を加味した「配食会社」の副食を利用し、「ご飯」と「汁物」はホームで作りお出ししている。誕生日等行事の際には希望を聞き、「おはぎ」「チラシ寿司」「お稲荷さん」「手巻き寿司」等をお出しし、おやつにはうす焼き手づくりしたり、リンゴを煮たりして季節を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士はいないが、同じ法人内の栄養士に献立を評価してもらって食事作りに反映している。また、記録などをみながらその時の身体状況に合わせて、食事・水分量などを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせた、口腔ケア用品を使用したり、できるところまではご本人におこなって頂き、足りない部分は職員が補助できるようにして清潔に保つことができるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄用品の見直しを定期的におこなっている。ご本人の自尊心に配慮し、排泄用品なども決めている。	自立されている方が若干名、一部介助の方が三分の一強、全介助の方が三分の一という状況である。職員は一人ひとりの状況を把握しており、起床時、食事前、就寝前等の定時誘導に合わせ排泄表も参考に利用者の様子を見て声掛けし誘導するようにしている。排便については3日間排便がない場合はコントロールを行い「お茶」「スポーツドリンク」「乳製品」を中心に1日1,600cc前後の水分摂取に取り組み排便促進に繋げている。また、カンファレンスの席上一人ひとりの状況について話し合い、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士や看護師からアドバイスをもらって食事や飲み物を提供したり、腸の活動を促すような体操などを取り入れたりしている。		

グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はあるが、「今日は気分がのらない」などの話がある時は、日にちを変更したり、希望がある際には入浴して頂いたりしている。	全利用者が介助を必要とする状況となっている。新築移転に伴い特殊浴槽が完備され、ホームでの全利用者の入浴が可能となった。基本的には週2回入浴を行い、希望により3回入浴される方もいる。入浴拒否の方もいるが日を替え対応している。何種類かの入浴剤を準備し気持ち良く入浴していただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調やペースに合わせ、休息をとってもらっている。夕食後、TVの見たい方や夜眠れない方なども談話で一緒に過ごして暖かい飲み物を飲んでもらったりして、ご本人がゆっくりできるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作り、利用者ごと「どんな薬を服用しているか。副作用や飲み方」などがそのファイルで把握できるようにした。薬が変更になった際には、薬局にお願いしファイルが更新できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が同じことをするのではなく、個人が選んで何かをできるようにしている。お手伝いなども、個々の好き好きや身体能力に合わせて行ってもらったり、レクリエーションも個々に合わせて体操を変えたりするなどして工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に会いに行ったり、馴染みの美容院などに行きたくて頂いたりすることができた。今後も感染状況に合わせて、できる時にはそのように出かけられる支援をしていく。	外出時、自力歩行の方が三分の一、車いす使用の方が三分の二という状況である。ホームの近くに春には桜の花が咲き誇る公園があり天気の良い日には散歩したり、桜の季節には「ご馳走」を食べながらお花見を楽しんでいる。また、感染対策を取った上で季節に合わせて紅葉見物や1月に行われる地域のお祭りの「山車」見物にもドライブを兼ね出掛けている。新型コロナ感染拡大が続き制約を受けながらの活動が続いているが、収束後には年間計画を立て季節に合わせた外出を行う予定であるという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自分でお金を持っている方はいらっしやらないが、通帳などの心配をされる方が多いので安心していただくような声掛けをしている。ご家族からお金を預かっている方もいるので、外出したり、必要なものがあつた際には、ご本人の承諾を得て、一緒に確認するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	普段から、何かご家族から連絡があつたらご利用者さんへ変わるようにしたり、お手紙をかくことができる方には書いていただくようにしている。		



グループホーム和田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	移転後、ご利用者さんからの評判もよく快適に過ごして頂けている声が聞かれている。談話スペースが広がったため、七夕やクリスマスツリー、ひな人形を飾ったりしてとても好評である。	新築移転された当ホームは近くに広々とした公園があり開放感が漂っている。南側の大きな窓からは明るい陽がいっぱい差し込み明るいホーム内となっている。広がった談話室には冬場はコタツが設けられ、自宅と同じように寛ぐことができることから好評であるという。壁に貼る飾り付けは、現在、「クリスマスツリー」となっており、季節感を感じることができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルスペースと、こたつスペースを設けて、ご自分の好きなほうで過ごしていただくことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの向きや位置、衣装ケースなどもご本人と確認しながら配置した。ご家族の写真を飾ったり、お洋服がないと不安になってしまう方のお部屋には、ハンガーを使って見えるようにしたり、裁縫箱などをおいておられる方もいらっしゃる。	全居室に介護用ベッドとクローゼットが完備されている。窓のカーテンは2重カーテンが設けられ暖かさが感じられる。持ち込みは自由で、家族と相談の上、イス、テーブル、衣装ケース、ハンガーラック等が持ち込まれ、家族の写真等に囲まれ新しい居室で快適な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移転後、段差なども解消され、トイレも手すりなどがついたため、ご利用者が安心して「できること」が増えたように思う。		